

令和3年3月18日6年生修了式

明日はいよいよ卒業式です。卒業式では改めて話をさせていただきますが、今日は私自身の話をさせていただきます。

中学校へ進学すると、ほとんどの子は部活動に取り組むこととなりますね。もうどの部活動に入ろうか、皆さん決めていますか。

ある時、私はある中学校へ転勤になりました。その時、部活動は野球を担当するように言われました。実は、私は野球が嫌いだったんです。理由は、野球がとても下手だったんです。そんな私が、野球部の担当です。

野球部の練習が始まりました。練習では、ノックをしなければなりません。私はたちまち、「3割バッター」というあだなをつけられてしまいました。プロ野球が好きな人はわかると思いますが、打率が3割ということは、10回打席に立って、3本はヒットを打つということです。これはすごいことです。では私はというと、ノックの打率が3割だったということ。つまり、練習でノックを打とうと思っても、空振りばかりで、10本のうち、3本くらいようやく当たる始末。それも、目的の方向へなかなか飛んでいかないという残念さ。子どもたちのがっかりした顔が忘れられません。「もういいよ。自分たちでやるよ」と野球部の子に言われてしまいました。

本当に悔しかったです。でも、次の日から、自分でノックの練習をすることにしました。ネットに向かって、朝、誰よりも早く来て、ノックを何本も打ちました。なかなか上手にならない私を見かねて、子どもたちが「こうやって打つんだよ」と教えてくれました。子どもが先生を教える部活動って、本当に不思議ですよ。

でも、それを3年続けました。3年間、毎日、毎日ノックの練習をして、ようやく普通に打てるようになりました。「石の上にも3年」ということわざがありますね。私は大人になってから、このことを実感しました。

監督がこんなだから、チームも弱かったと思いますよね。私が監督になった1年目は、夏の3年生最後の大会に、1回戦で負けました。3年生の子たちには本当に申し訳ないと思いました。次の年、とても強い学校にあたることになり、今年も厳しいかなと思いましたが、ここで奇跡が起こりました。絶対に負けると思っていた学校に勝つことができたんです。この勢いで、海部地区で準決勝まで勝ち進みました。準決勝では負けてしまったのですが、3位になりました。野球部の子たちは、いつの間にか強くなっていたんです。監督がノックも上手に打てない、野球が下手な先生だったのに、子どもたちは、だったら自分でといった具合に、一生懸命勝つための練習を自

分たちで工夫したんです。そういった積み重ねが結果に出たんだなと今では思います。うまくいかないことを他人のせいにするのはいくらでもできます。監督が野球が下手なのに勝てるわけがない、そんな言い訳はいくらでもできたと思います。でも、自分たちで工夫して、自分たちで目標を達成することの大切さを、野球部の子たちは示すことができました。私も、子どもたちから学ぶことができました。

野球が下手で野球が嫌いだった私も、おかげで今は野球が大好きです。嫌いだと思うことでも、続ければ何とかなる。好きになることができる。大人の私が学んだことでした。

中学校へ行って、大変なこともたくさんあると思います。でも、皆さんには、あきらめずに挑戦すること、続けることをぜひ忘れないようにしてほしいと思います。